

# 京都府下における産業保健スタッフ (主に産業看護職)の 職場巡視に対する意識・実態調査

主任研究者: 森 洋一<sup>1)</sup>

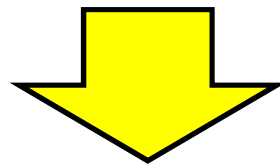
共同研究者: ○村田 理絵<sup>1)</sup> 池田 正之<sup>2)</sup>  
森口 次郎<sup>1)</sup> 高田 志郎<sup>1)</sup>  
桑村 明男<sup>1)</sup> 玉泉 孝次<sup>1)</sup>  
奥田 友子<sup>2)</sup> 井手 陽子<sup>2)</sup>  
大橋 史子<sup>2)</sup>

1) 京都産業保健推進センター

2) 財団法人京都工場保健会

## 目的

- ・**職場巡視**は、産業看護職にとって最も重要かつ必要な業務の一つである。
- ・産業看護職において、職場巡視の法的根拠が未だない。
- ・産業看護職を対象にした**職場巡視**の意識・実態調査は見当たらない。



産業看護職の職場巡視の実態（課題等も含む）を明らかにして、職場巡視の重要性や意義を見いだす。

## 方法

### <対象>

- ・当センターで把握している産業看護職 270名、産業医 532名、衛生管理者等 566名。

### <方法>

- ・聴き取り調査からアンケートを作成し、本アンケート送付。

\* 質問内容:「巡視の頻度、効果等」、「産業看護職が巡視することのニーズなど」

### <解析対象>

- ・産業看護職111名 (回収率:57.8%、有効回答率:41.1%)
- ・産業医187名 (回収率:40.4%、有効回答率:35.2%)
- ・衛生管理者等282名 (回収率:56.7%、有効回答率:49.8%)

## 訪問聴き取り調査の場面



## 保健指導の場面



## 職場巡視の場面



# 結果

## 1) 産業看護職

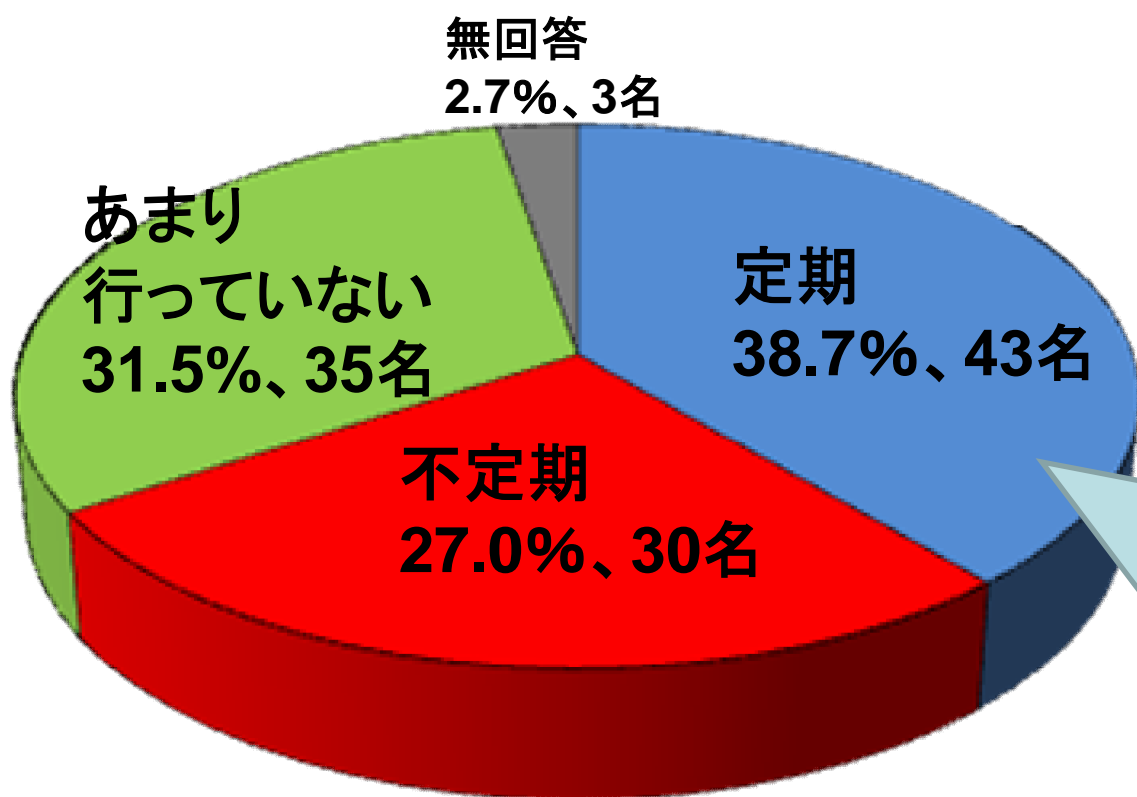
### <回答を得た産業看護職111名の特徴>

性別（最頻値）、（%）	女性、100%
年齢（最頻値）、（%）	「40歳-49歳」、37.8%
産業看護職経験年数（最頻値）、（%）	「3年未満」と「20年以上」、合計43.2%
雇用形態（最頻値）、（%）	「正社員（職員）」、55.9%
勤務先（最頻値）、（%）	「企業・事業場の健康管理室」、48.6%
担当労働者数（最頻値）、（%）	「1000人以上」、28.8%
衛生管理者としての兼務状況（最頻値）、（%）	「兼務していない」、71.2%

# <職場巡視の状況>

回答を得た産業看護職 111名のうち

## 「職場巡視を定期的に行っているか」



定期・不定期に行っている73名(65.7%)のうち、

### ★巡視の頻度

「月に1回」50.7%

「週に1.2回」27.4%

### ★巡視の同行メンバー

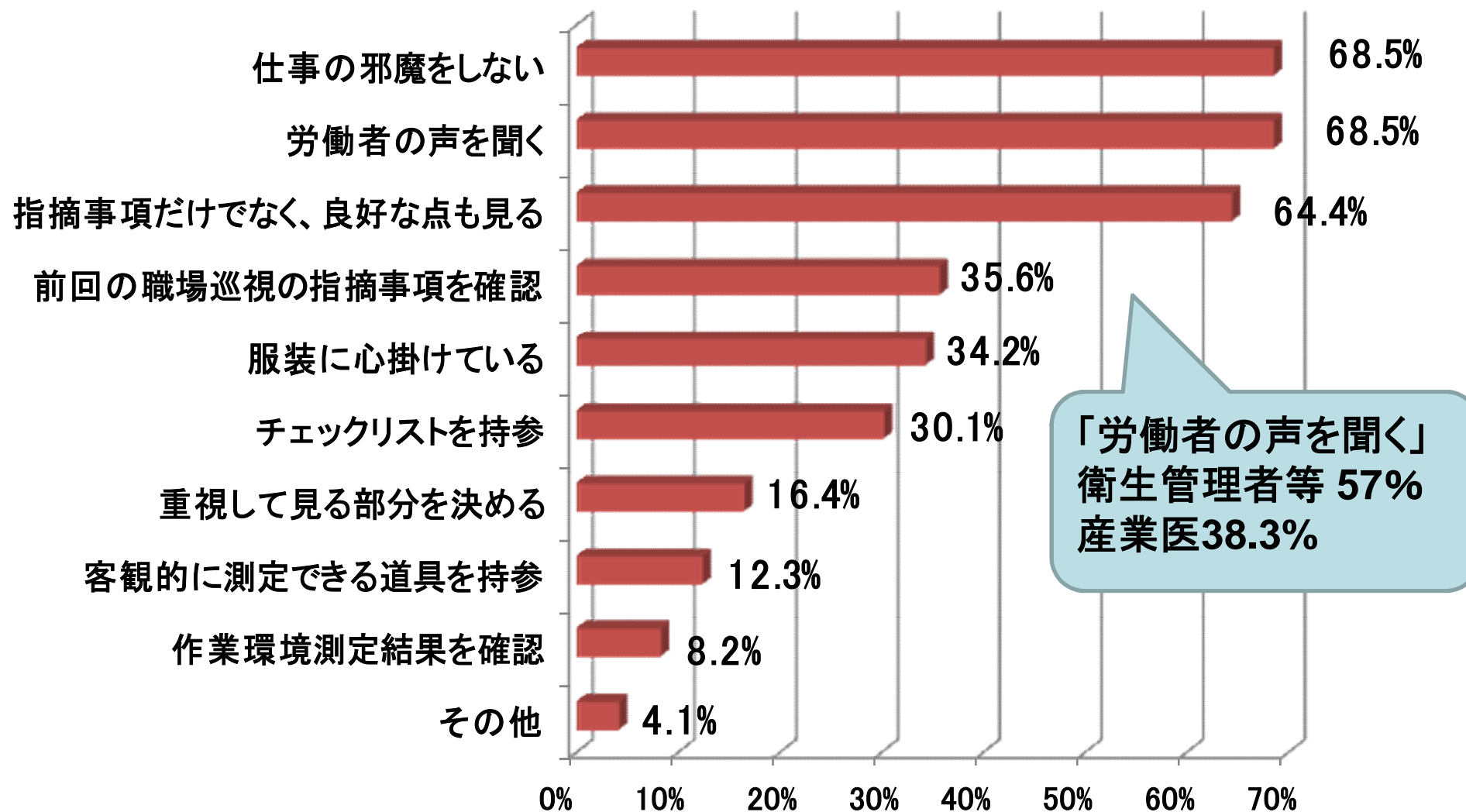
「産業医」68.5%

「衛生管理者」42.5%

「一人で」30.1%

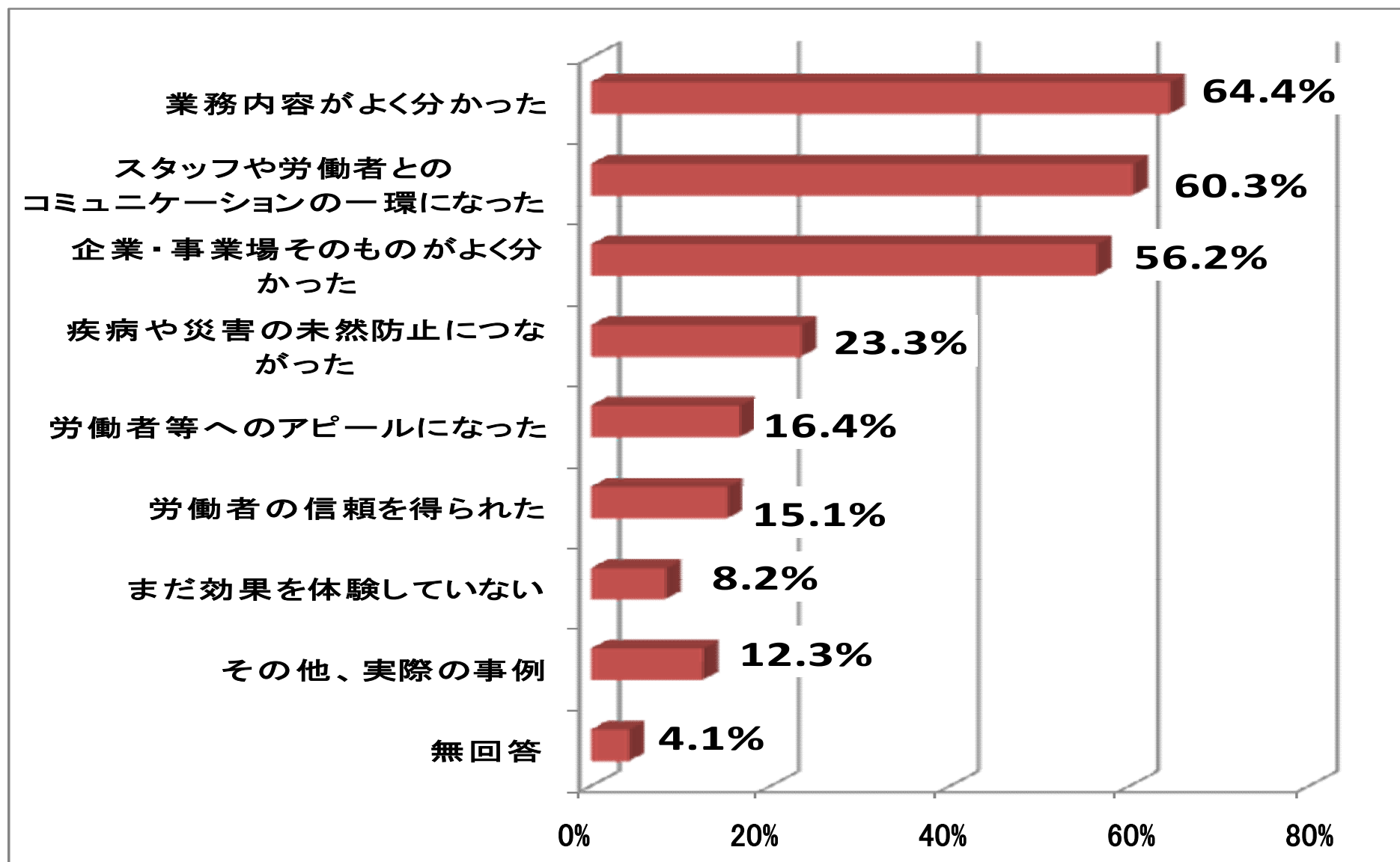
## 職場巡視に定期的・不定期に行っている73名の産業看護職より

### 「職場巡視の際、主に心がけていること」



職場巡視に定期的・不定期に行っている73名の産業看護職より

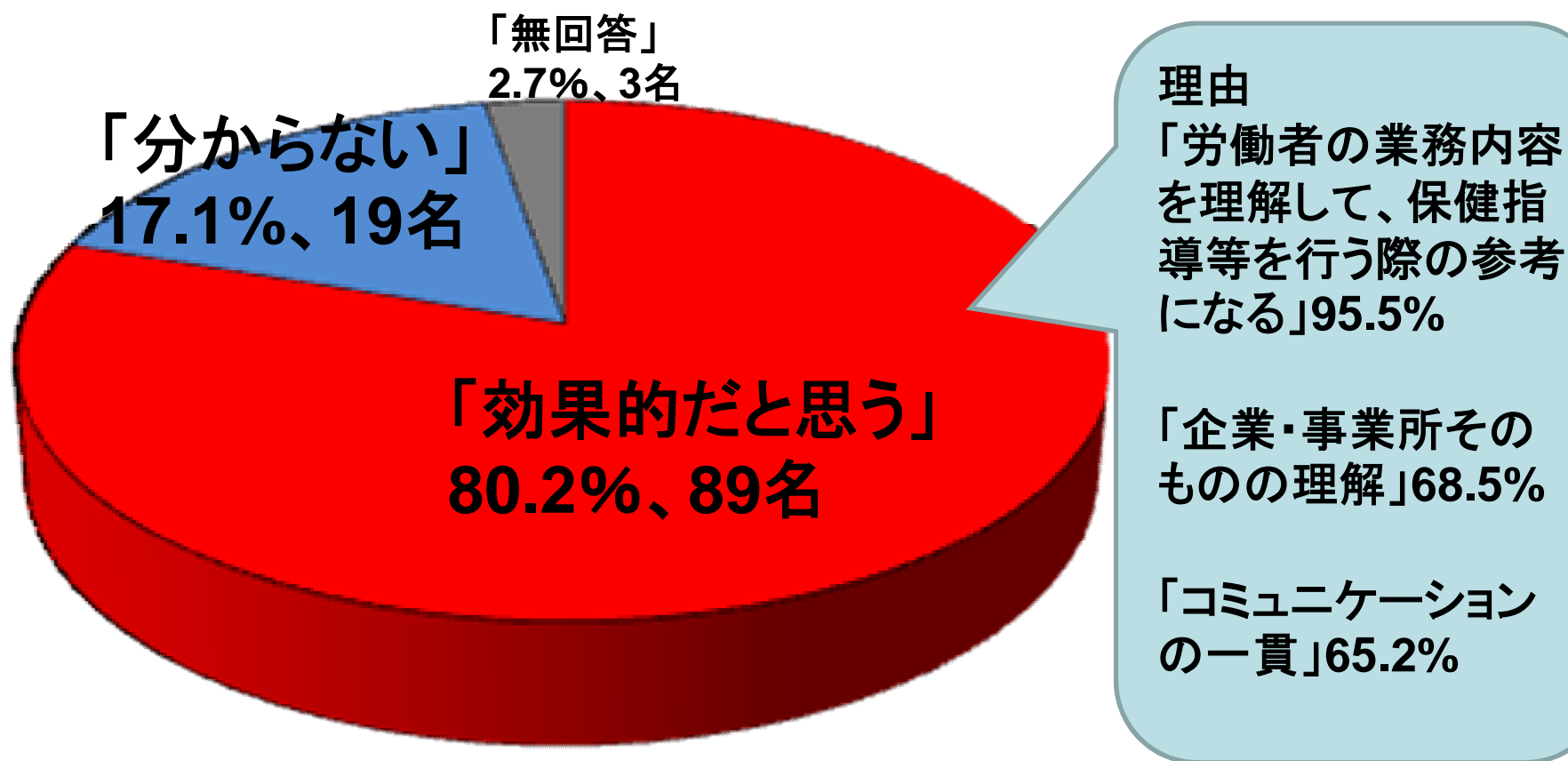
## 「職場巡視に行って、実際どのような体験をしたか」





調査に回答があった産業看護職 111名のうち

## 「産業看護職が職場巡視することは労働者の健康支援に効果的か」



※「あまり効果的だと思わない」0名

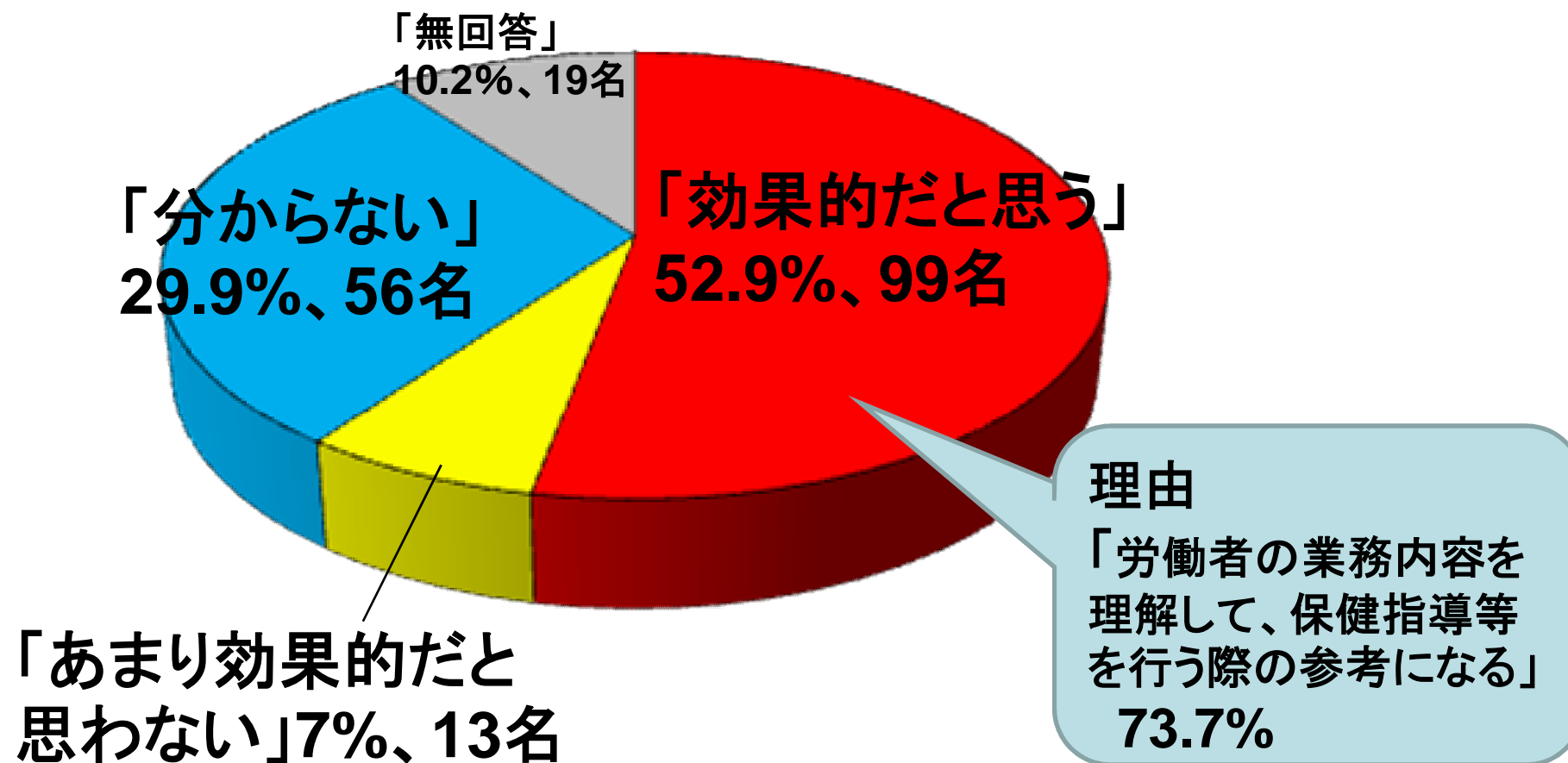
## 2) 産業医

### <回答を得た産業医187名の特徴>

性別（最頻値）、（%）	男性、85%
年齢（最頻値）、（%）	「60歳以上」、55.6%
産業医経験年数（最頻値）、（%）	「10年以上15年未満」、29.9%
勤務先（最頻値）、（%）	「開業医」、67.6%
担当労働者数（最頻値）、（%）	「100-299人」、29.4%

調査に回答があった産業医 187名のうち

## 「産業看護職が職場巡視することは労働者の健康支援に効果的か」



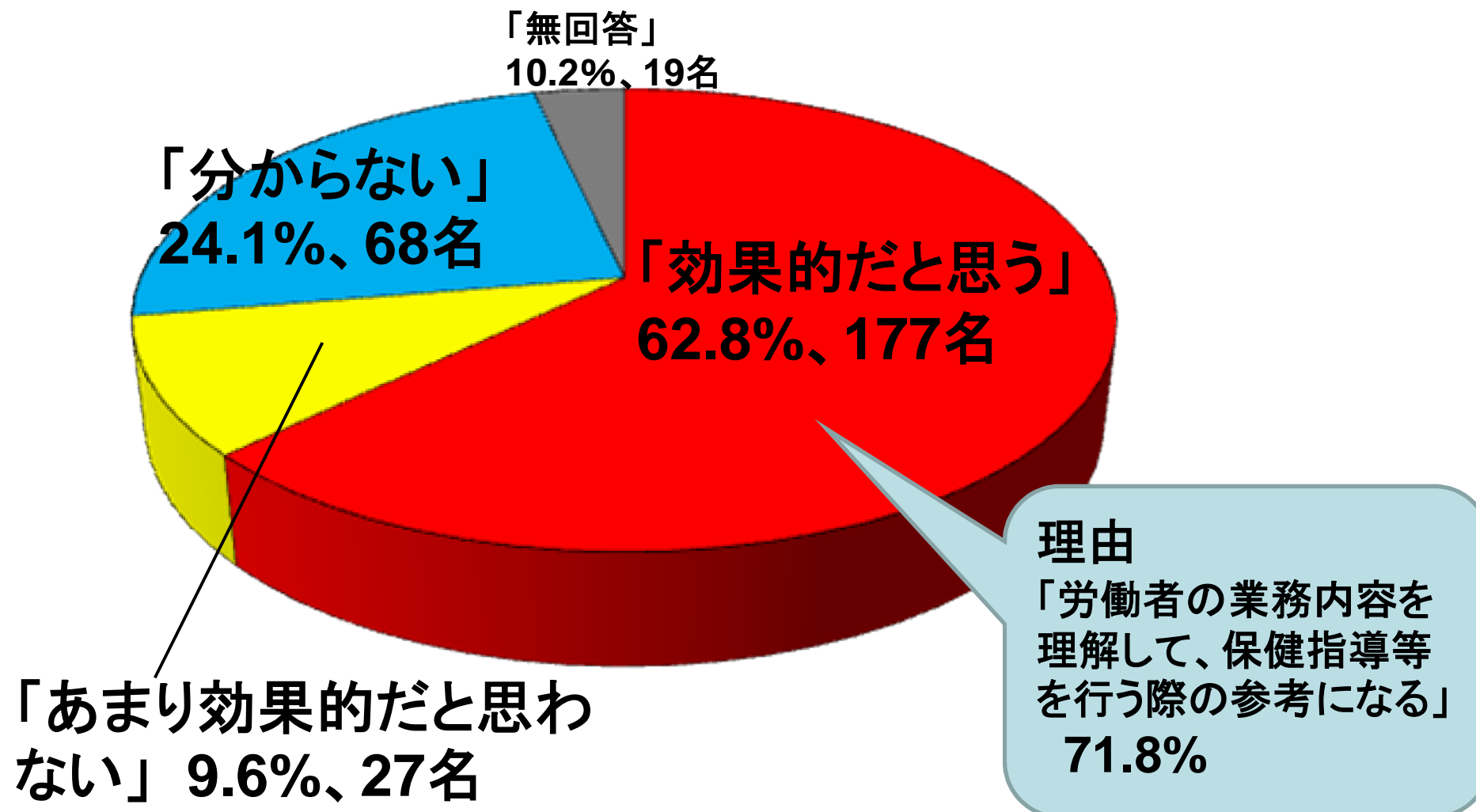
## 2) 衛生管理者等

### <回答を得た衛生管理者等282名の特徴>

性別（最頻値）、（%）	男性、76%
年齢（最頻値）、（%）	「40歳-49歳」と「50歳-59歳」、合計68.8%
衛生管理者等経験年数（最頻値）、（%）	「5年以上10年未満」、28.7%
職種（最頻値）、（%）	「衛生管理者」、76.2%
担当労働者数（最頻値）、（%）	「100-299人」、35.8%

調査に回答があった衛生管理者等 282名のうち

## 「産業看護職が職場巡視することは労働者の健康支援に効果的か」



# 考察

- ・産業看護職の約7割が職場巡視している⇒巡視の効果を産業看護職の8割が実感している。
- ・産業医・衛生管理者の5～6割が、産業看護職の職場巡視は労働者の健康支援に効果があると回答。



- ・産業看護職の職場巡視は、労働者の健康支援(特に労働者の業務内容を理解して保健指導等を行う際)に効果がある。

しかし、産業看護職において、疾病や災害の未然防止につながったという巡視の効果は、労働者の業務内容を理解する等の他の巡視の効果と比較し23.3%と低い割合である。



- ・産業看護職が感じている巡視の効果を産業医や衛生管理者等と十分には共有できていない部分もあると推察される。
- ・産業看護職において、作業環境および作業方法に関する問題点を指摘し改善にまで結びつける知識・経験不足もあると考えられる。
- ・産業医や衛生管理者等においても、予算がない、担当者がいない、手が回らないなどの理由から改善にまで持ち上げることのできない部分等もあると考えられる。

## まとめ

- ・産業看護職の職場巡視は、労働者の健康支援（特に労働者の業務内容を理解して保健指導等を行う際）に効果がある。

しかし、産業看護職の職場巡視の効果が十分には活かされていない現状がある。

- ・産業看護職の職場巡視の効果を十分に活かすためには、産業看護職の職場巡視の効果を活かすシステム形成や、産業看護職の巡視のスキルアップや、産業看護職のPR等が必要である。